

# 日本フェンシング協会の北京オリンピック強化策に関する研究 ～特に費用対効果に関して～

## A Study of Training Project of Japan Fencing Federation for Beijing Olympics 2008 ～Focused on Costs and Results～

1K05A013  
指導教員 主査 間野義之先生

池内 祥  
副査 武藤泰明先生

### 1、背景

私は11歳の頃よりフェンシングを続けてきており、国内外の大会に数多く参加してきた。

特に印象に残っている大会はワールドカップで、そこで目の当たりにしたのは日本チームの資金不足による環境の不備であった。

例えば、遠征費の殆どを選手の自費負担であることや遠征にコーチがつかないことが挙げられる。その一方、北京五輪では男子フルーレの太田選手が協会の策定した集中的に強化費をフルーレ種目に充当した強化プロジェクトによって、銀メダルを獲得した。

しかし、一般的な他競技の代表チームのイメージからかけ離れたこの状況をなんとか改善しなくては、日本フェンシングが継続的に発展する事は難しい。資金面の安定がこれに大きく起因するのではないかと思い、今回の日本フェンシング協会の北京オリンピック強化策と、国際舞台での戦績の関係を研究するに至った。

### 2、研究目的

今回、北京オリンピックでフェンシングは史上初のメダルを獲得した。いわゆる、マイナー競技であるフェンシングは資金的に潤沢とは言いがたい歴史的背景を持ちながら、今回、集中的な強化費の投入によって戦績をあげた。

この日本フェンシング協会の強化策を事例として、マイナースポーツが抱える課題である①環境整備②国際的競技力の向上③強化費の調達の3点について検証・考察する。

### 3、研究方法

以下のそれぞれの点を明らかにする。

- ① 具体的な強化策内容
- ② 強化策に至った経緯
- ③ 強化策の詳細(各強化費の財源とその推移)  
(1) 日本フェンシング特有の強化(2) 強化費の財源とその種類と推移、使途
- ④ 強化による戦績

強化策の前後の比較をすることで、国際大会でどれほどの戦績があげたかを明らかにする。

### 4、結果

日本のフェンシングはカデ・ジュニア期でフルーレは国際的に競技レベルが高く、シニアでもフェンシングのフルーレ、エペ、サーブルの中でもフルーレの成績が良いという経緯があった。

よって、北京オリンピック強化策では、ナショナルチーム男女シニアフルーレへの重点的な強化費の投入により ①練習環境の整備②コーチの招聘③JOC補助金からの遠征費負担点、以上の3点が主な強化として行われた。

2007年3月より、男女フルーレ選手はJISS近辺へ住居を移し、練習に集中出来る環境を整え、オレグ氏のコーチの下、北京オリンピックまでの体制を整えた。

その結果、男子フルーレの団体戦成績が暫定的に世界ランキング1位を記録し、個人戦の世界ランキングもナショナルチームメンバー全員が向上した。

女子フルーレも2007年の世界選手権の団体

戦で史上初の3位に入賞し、世界選手権で初めてメダルを獲得した。

翌年8月のオリンピックには男子2名、女子1名が出場し、太田選手が銀メダル、菅原選手が7位入賞と過去最高の結果を残した。

## 5、考察

北京オリンピック強化策により、住居やコーチの面で練習環境の整備がなされ、安定した遠征により、アテネオリンピック以前よりよい環境で、北京オリンピックで銀メダルを獲得した。

今後、日本のフェンシングがフルーレだけでなく、エペ・サーブルも世界上位のレベルで戦うためには、フルーレと同等の環境を整備することが必要である。また、カデ・ジュニア時の大会を増やすことも必要である。それは日本でカデ・ジュニア期のフルーレのレベルが高いことが、シニアレベルでの活躍にもつながっていることから明らかなように、カデ・ジュニア期のエペ・サーブルのレベルを

上げることが、将来的にシニアでの活躍を期待できるからである。

また、エペ・フルーレの待遇をフルーレと同等にするためには、多額の強化費が必要である。

しかし、JOCの補助金はあくまで補助金であるため、今後、協賛金・寄付金を企業などから調達することが重要と考える。

## 6、結論

今回、多くの強化費調達し男女フルーレに投入し、北京オリンピックで銀メダルを獲得した。しかし、強化費を増額すれば結果が出るわけではなく、日本のフェンシングはどこに問題があるかを見極めて弱点に強化費を投入した結果、北京オリンピックでの快挙に至った。

今後、この快挙を一時的なもので終わらせるのではなく、普及し、市場を拡大させ、更なる強化を図るサイクルを生み出していかなくてはならない。